

## 第 238 回 江東区の浅野吉次郎像と吉田猛・チサト夫妻之像

筆者：林 久治（記載：2023 年 6 月 4 日）

### （1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。昨年の 7 月は、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、大阪在住の 3 人の孫達は夏休み前に感染したが軽症であった。そこで、私は 9 月初旬に大阪に行き、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってから、運動を兼ねて銅像探索を続けている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 3 月 21 日から 31 日まで、大阪に滞在し孫達の世話をした。その間に、銅像探索も少しは出来た。[227 回の記事/f](#) では、その中から大阪市の弘世像の探索記を記載した。[228 回の記事/f](#) では、茨木市の奥田光像の探索記を記載した。[229 回の記事/f](#) では、京都市の田辺朔郎像の探索記を記載した。[230 回の記事/f](#) では、大阪市中央区の林市蔵像の探索記を記載した。

私は 5 月 21 日、深川不動の三十六童子像と富岡八幡宮の伊能忠敬像と富岡宮司像を探索し、それらの探索記を前回の記事 ([その 1/f](#) と [その 2/f](#)) に記載した。[1\) のサイト/](#)には、江東区の銅像が比較的少ないので、他にあるかどうかを検索した。その結果、[3\) のサイト/1](#) で新木場駅前にある木材・合板博物館に 3 基の銅像があることを見つけた。これらは [1\) のサイト/](#) に収録されていないので、5 月 27 日にこれらを探索した。本稿はその探索記である。なお、本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

### （2）新木場駅前の木材・合板博物館

次ページの図 1 上に、新木場駅と木材・合板博物館の周辺地図を示す。新木場駅前には木材会社の街であるが、その中でも「新木場タワー」が一番高い建物である。その写真を図 1 下に示す。[4\) のサイト/1](#) に次のように記載されている。

1937 年：歴史の始まりとなる「丸吉商店」創業。2006 年：さらなるグローバル化・多様化に対応するため、JK ホールディングス株式会社 (JKHD) が発足。2007 年：新木場に新社屋「新木場タワー」竣工。「木材・合板博物館」開設。

私は5月27日に新木場駅に到着した。駅の南側から、「JKHD」と書かれたひと際高いビルが図1下のように見えた。駅から本ビルまでは、徒歩で10分足らずであった。



図1. 上：新木場駅と木材・合板博物館の周辺地図、下：新木場タワー。



図 2. 新木場タワーの入口

図 2 に、新木場タワーの入口を示す。そこにある看板には、次のように記載されていた。

**木材・合板博物館 当ビル 3・4 階 開館時間：10.00-17.00 休館日：月・火・祝日**

ウィキペディアには、木材・合板博物館（以後は、本館と書く）の概要が次のように書かれていた。

日本において合板が製造され 100 年目にあたる 2007 年 10 月、木材と縁の深い新木場に開館した。木材や合板の特性、利用方法や製造方法、木材と合板の未来といったコンセプトからなる展示が行われている。利用されている木材の見本や合板を製造する機械も多数展示されており、特に合板を製造するために木材をかつらむきする機械であるロータリーレースのデモならびに展示は日本唯一。

### （3）浅野吉次郎翁の胸像

新木場タワーの敷地に入ると、その南側には芝生に覆われた広くて綺麗な庭園があった。そこに、胸像と夫婦像が 1 基ずつ設置されていた。先ず、胸像の方から紹介しよう。次ページの図 3 上に胸像周辺の写真を、図 3 下左に胸像の写真を、図 3 下右に胸像背面に彫られた制作者のサイン示す。

胸像の台座正面には「浅野吉次郎翁」と書かれた題字があった。また、制作者のサインは「一九五七年 野々村一男作」と読めた。ウィキペディアによれば、野々村 一男の略歴は次の通りである。

**野々村 一男（1906 年 11 月 15 日 - 2008 年 2 月 11 日）は、愛知県名古屋市に生まれる。東京美術学校卒業。愛知県立芸術大学名誉教授。**

（本文は 5 ページに続く。）





図3. 上：胸像の周辺、下左：浅野吉次郎翁像、下右：制作者のサイン





図4. 台座背面の碑文

台座背面には、図4に示すような「**頌徳の辞**」と題する碑文があった。本碑の内容は、本像の概要欄に記載する。また、[5\) のサイト/1](#)には次のような記載があった。

2012年11月20日、東京都内において、特定非営利活動法人 木材・合板博物館の開館5周年記念式典が開催された。式典では、1907年11月3日に故浅野吉次郎翁が、独自にロータリーレースを開発し、我が国で初めて「合板」を製造したことに敬意を表し、また森林林業・合板機械・接着剤・物流流通等合板産業に関わるすべての業界が我が国合板業界とともに大きく発展することを祈念して、11月3日を我が国の「合板の日」とすることを宣言しました。式典に先立ち、日本合板工業組合連合会の会員である**中日本合板工業組合より、故浅野吉次郎翁の銅像や数々の遺品が同博物館へ寄贈されたことが披露されました。**

浅野吉次郎翁の経歴は、ウィキペディア、[6\) のサイト](#)、[7\) のサイト/f](#)などに記載されている。それらの資料などにより、浅野像の概要は次の通りである。

#### 浅野吉次郎翁胸像

設置場所：東京都江東区新木場 1-7-22 新木場タワー 木材・合板博物館南側庭園

制作者：野々村一男（1906年11月15日 - 2008年2月11日）

建立時期：1957年11月3日

現地に移転：2012年（名古屋市中川区の中日本合板工業組合より）

設置経緯：浅野吉次郎（あさの きちじろう、1859 - 1926）は、尾張国名古屋出身の発明家。尾張藩の御用桶業者の浅野文六の次男として、上島町において生まれる。次男ではあったが、家業を13歳で継ぐこととなる。イギリス製の茶箱に着想し、木材板の製造を志す。1907年、マッチの軸木製造機を元にロータリー式ベニヤ板（浅野式合板）の製造に成功する。この発明に成功した日は11月3日とされており、この日は合板の業界団体である日本合板工業組合連合会とNPO法人木材・合板博物館が共同で「合板の日」として制定している。1910年に特許を取得した。浅野木工場は吉次郎の死後、1930年に閉鎖されている。

本像台座背面の碑文には、以下の記載がある。

#### 頌徳の辞

浅野吉次郎翁は安政六年五月十四日名古屋市に生まれ家業の木工業を継ぐとともに木材の高度利用を図らんが為め精魂を傾けて諸機械の改良発明に努力しその天才的創意と工夫は常に世人を驚嘆せしむるものがあつた。明治四十年遂に木材丸剥機を發明して我が国合板の端緒を拓き爾來研鑽倦むところを知らず終世斯業の進歩發展に貢献し今日に於ける合板界隆盛の基礎を確立するに至つた。

今や我が合板工業は飛躍的の伸展を續けてその声価を高め国内はもとより広く世界各国に互りその需要を増大して我国經濟上重要な地位を占めつつあり。

斯くの如き翁の偉大なる功績を回顧して茲に合板工業創始五十周年を迎ふるに当たり永くこの徳を頌えんが為有志相寄り翁の像を刻みその風采を偲ばんとす。

昭和三十二年十一月三日建立 遺徳顕彰会 協賛 日本合板工業会

#### （4）吉田猛・チサト夫妻之像

広い庭園には、浅野像の反対側に夫婦像があつた。その周辺を図5に示す。



図5. 夫婦像の周辺





図6.  
 左：吉田猛・チサト夫妻像  
 右：本像背景の碑文の一部。  
 本文より、以下の情報が得られた。  
 創業者：吉田 猛  
 生誕：1912年5月16日  
 逝去：1989年10月21日  
 丸吉ベニヤ板店  
 創業：1937年10月



図6左に夫妻像を、図6右に本像背景の碑文の一部を示す。本像の台座正面には「創業者 吉田猛 チサト 夫妻」と書かれた題字があった。図7には、本像背面の制作者サインを示す。サインは「鄭寶成 2011」と読める。[8\) のサイト/3](#)にば、次の記載があった。

鄭寶成 出生日期：1966年、 出生地：浙江省乐清市七里港

日本人の銅像をC国人が制作した例は珍しい。



図7. 本像背面の制作者サイン

また、[9\) のサイト/1](#)に次のような記載があった。

①JK ホールディングス社グループは来年 10 月に創業 75 周年を迎えるが、その記念事業の第一弾として、(2011 年) 10 月 8 日に創業者である吉田猛・チサト夫妻之像の除幕式が新木場タワー（東京都江東区）南側庭園内で行われた。吉田繁 JK ホールディングス会長の発案で銅像が建立されたもので、銅像の後ろにある石碑には現グループ社員 2688 人の名前と「社員皆家族」の言葉が刻まれている。創業者夫人の吉田チサトさん、吉田会長夫妻、吉田社長夫妻の 5 人による除幕式が行われた。

②主催者を代表して吉田会長は、「当社が来年 75 周年を迎える当たり、創業者の偉業をたたえ、創業者のモットーである”社員皆家族”にちなみ、現社員の名前を刻み、我々現社員が再度原点を思い起こす場を作り、創業 75 周年のイベント会場とするために建立した」とあいさつした。

③OB 代表の倉林伊一郎氏は、「1948 年の入社時はわずか社員 3 に人であった商店を業界トップ企業に育て上げた吉田会長へ敬意を表す」と述べた。

JK ホールディングス社の沿革は、[10\) のサイト/](#)に記載されている。本社は 1937 年の創業であるが、2011 年に創業者夫人がご健在なのは慶賀の至りである。

#### (5) 新木場タワーの木材・合板博物館

私は屋外の銅像探索の後、いよいよ新木場タワーに入り、木材・合板博物館を見学した。玄関を入ると、1 階のホールに堀江謙一氏の「マーメイド号」のレプリカが展示してあった。その写真を、[図 8](#)に示す。私は「堀江さんが無事に太平洋を横断できたのも、日本の優れた合板技術のおかげだったのだ」と感心した。



図 8. 新木場タワー 1 階のホールに展示されていた「マーメイド号」のレプリカ



2階に上がるとそこにも展示所で「JK MUSEUM」と書いてあった。本博物館は、JKホールディングスのグループ企業の歴史を展示・紹介している。その入口に、1基の胸像が設置されていた。その写真を図9に示す。



図9.  
上：本ビル2階にある「JK MUSEUM」の入口、  
下：「JK MUSEUM」の入口に設置された吉田猛像。

吉田猛像の周辺には、本像の制作者や製作時期の説明は無かった。また、「JK MUSEUM」に展示されていた資料に、次のような記載があった。

2011年の吉田夫妻像の除幕式に90歳のチサトさんが出席した。従って、チサトさんの生年は1921年である。2016年にチサトさんが亡くなられた。

以上の資料などにより、夫妻像の概要は次の通りである。

#### 吉田猛・チサト夫妻之像

設置場所：東京都江東区新木場 1-7-22 新木場タワー 木材・合板博物館南側庭園

制作者：鄭寶成（1966-、出生地：中国浙江省乐清市七里港）

除幕式：2011年10月8日 創業75周年記念

設置経緯：吉田猛氏（1912年5月16日-1989年10月21日）は1937年10月に丸吉ベニヤ板店を創業。妻のチサトさんの生年は1921年で、没年は2016年である。

JKホールディングスの沿革は次の通り。

1937年：創業者・吉田猛が個人事業を始め、ベニヤ板を得意先の要望に合わせてカットし販売・配送。

1949年：各種合板の仕入れ、販売を目的として、東京墨田区に(株)丸吉商店を設立。

1963年：(株)丸吉に商号変更。既存の合板卸のみでの業況拡大は難しいと判断し、新建材の販売を開始。

1998年：興国ハウジング(株)との対等合併を行い、商号をジャパン建材(株)に変更。

2006年：持株会社体制へ移行し、商号をJKホールディングス(株)に変更。

2007年：新木場に新社屋「新木場タワー」竣工。「木材・合板博物館」開設。

吉田猛胸像の概要は次の通りである。

#### 吉田猛（江東区）

設置場所：東京都江東区新木場 1-7-22 新木場タワー2階「JK MUSEUM」の入口

制作者：不明、制作時期：不明

#### 参考資料

1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>

2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>

3) のサイト：[http://www.t-shirt-ya.com/itoup/2014/06/2\\_part2.html](http://www.t-shirt-ya.com/itoup/2014/06/2_part2.html)

4) のサイト：<https://www.jkhd.co.jp/recruit/corporate/history.html>

5) のサイト：<https://www.jpma.jp/info/121120.html>

6) のサイト：<https://www.jkenzai.co.jp/business/pdfviewer.php/?pdf=ブルズビジネス2016年11月号>

7) のサイト：

<https://www.city.nagoya.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000091/91791/2syousono2.pdf>

8) のサイト：

<https://baike.baidu.com/item/%E9%83%91%E5%AE%9D%E6%88%90/1908453>

9) のサイト：[https://kengakukai.net/news/material/751\\_jk.html](https://kengakukai.net/news/material/751_jk.html)



10) のサイト：<https://www.jkhd.co.jp/corporate/history/>